

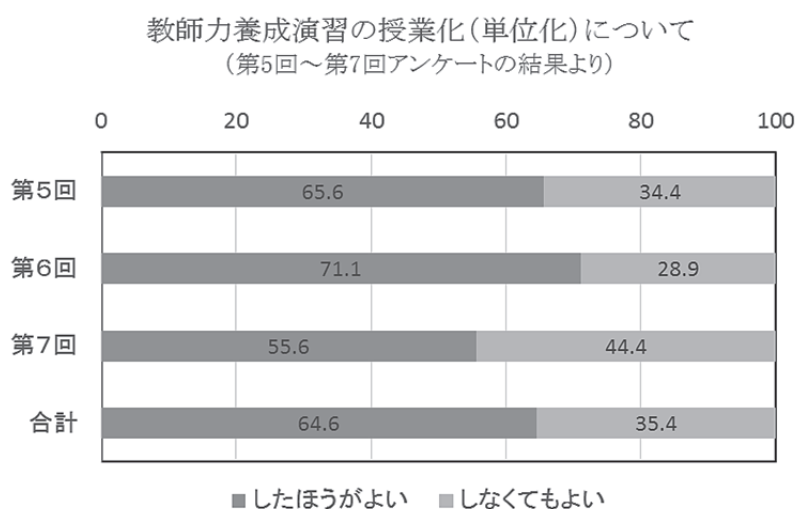
4. まとめ

4.1. 調査のまとめ

本調査研究事業では、教育委員会や管理職を含む学校の教員が、直接的に養成段階にある学生に教育課題を問いかける主体的・協働的な演習形式の授業として「教師力養成演習」を、教員養成カリキュラムに位置づけることの妥当性・必要性を明らかにすることを目的とした。そのため、現行の「教師力養成講座」受講生を対象とする調査と、教育委員会や学校が養成段階の学生に直接的に関わる特徴的な取組みを行っている大学・教育委員会への訪問調査を実施した。

受講生対象のアンケート調査は、各講座の評価、講座テーマについての要望、講座運営や教員養成カリキュラムに位置づけることに対する意見等について実施した。大学と教育委員会や学校が連携した実践的指導力の養成を目的とした特徴的な取組みを行っている山口大学、山口県教委、東京学芸大学、三鷹市教委、鹿児島大学を訪問調査の対象とした。

現行の「教師力養成講座」の受講生を対象とした第5回から第7回のアンケート結果では、授業化に対して、賛成の意見の方が多く結果となった。授業化に賛成する意見としては、「積極的に参加するきっかけになると思うから」、「現場の先生の話聞く機会を得られるから」、「教職を目指す人が必ず考えなければならないことだと思うから」といった講座で実感した有用性や効果によるものが多くみられた。また、授業化をしなくてもよいとする意見としては、「単位目的でなく、向上心をもってきている人たちと話し合える貴重な機会だと思うので」、「単位化すると、どうしても『義務』になってしまい、いい加減な気持ちで受講する人も出てくるのではないかと」、「授業の強制というイメージが学生の意欲や自主性を損なう可能性があるのでは」といった現状の自主参加形式の講座だからこそ保たれている参加者の主体性や協働学習の質低下を心配するものが多くみられた。



訪問調査では、山口大学の「ちゃぶ台プログラム」、東京学芸大学の「学芸カフェテリア」や「教師力実践講座」、鹿児島大学の「教員養成基礎講座」など、大学と教育委員会や学校が連携した実践的指導力の養成を目的とした特徴的な取組みがみられた。また、三鷹市教育委員会の「みたか教師力養成講座」、山口県教育委員会の「教師力向上プログラム」など、教育委員会が主体となり大学と連携して養成段階の学生に直接かかわる取組みもみられた。

学生を対象とするアンケート調査から、教員を目指す学生が主体的・選択的に参加するプログラムであることが自分たちの資質や能力を高めるために好ましい形態であると感じていることが明らかとなった。また、大学・教育委員会を対象とする訪問調査からも、選択的なプログラムを提供する理由として、学生の主体性を重要視していると考えられた。

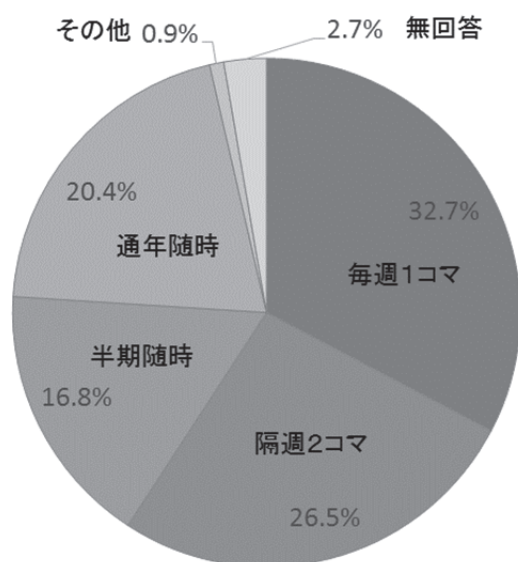
4.2. 授業化に向けた課題と今後の計画

教員養成カリキュラムにおいて、学校現場における課題についての不安感を払拭するためにも、学校教育現場の生の声に直接触れる機会の確保と、課題解決方法を理解・修得することが必要不可欠といえる。

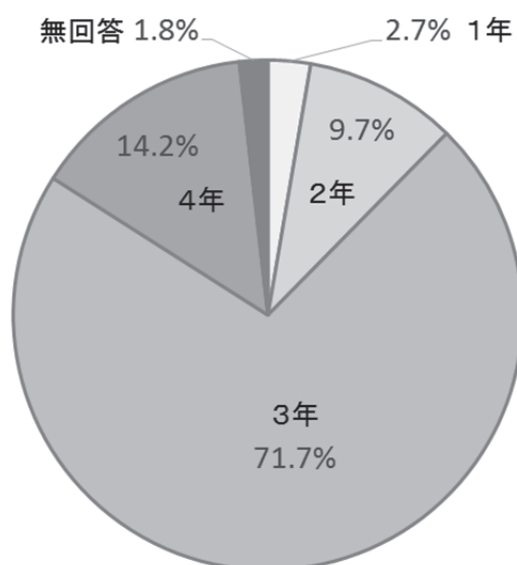
学生を対象とするアンケートや大学及び教育委員会への訪問調査を通じて、大学と教育現場である学校や教育行政を担う教育委員会が連携・協働して養成段階の学生に関わることは、多種・多様な教育課題に対応できる実践的指導力の養成に大きな意義を有すると考えられた。

このような意味から「実践的指導力の養成に資する『教師力養成演習』」を授業としてカリキュラムに位置づけることが適切であると考えられる。しかし、「授業にしてしまうと、すべて参加できる予定の人しか受けられなくなる」、「本当に自分にとって必要だと考える人だけが希望すればいいと思う」、「参加できるときに参加したい」といった、自主参加形式の長所に関する意見もあることから、受講条件については工夫が必要であると考えられた。また、授業としてカリキュラムに位置づけるにあたっては、開講時期や開講時間帯について、全学の課程認定学部と協議を進めることが必要となる。

開講希望時間帯について
(第5回～第7回アンケートの結果より)



開講希望時期(学年)について
(第5回～第7回アンケートの結果より)



アンケートや訪問調査の結果から、開講時期(対象学年)は教職に関する基礎的知識を修得して教職志望が明確となる3年次を中心に検討を進める。また、開講時間については、年度をまたぐ予定が組みにくい学校や教育委員会との連携が不可欠であることから随時開講(おおよその曜日や時間を決めた不定期開講)か隔週開講で検討を進めることが妥当である。

本調査で得られた結果は、大学と教育委員会・学校が連携して教員養成に関わる取り組みが、教育課題に対応するための教員養成教育の質向上に有効であることを改めて確認するものであった。訪問調査した以外にも、大学と教育委員会・学校が連携して教員養成に関わる取り組みは多いが、カリキュラムに位置づけて授業化(単位化)している例は少ないと考えられる。本調査研究の結果は、授業化に向けた岡山大学での検討結果や実施後の評価・改善を含めて、教員養成に携わる関係諸機関に周知を図りたいと考える。

5. 参考：これまでの「教師力養成講座」

5.1. はじめに

教師の大量退職の時代を迎え、全国で3万人を超える新規採用者のうち、3人に1人が新規学卒者となっている。全国で1万人以上の教師が、大学を卒業して4月から教壇に立ち、初めて1年を通して児童生徒を指導することになる。

教員採用試験に合格し教師として教壇に立つことになった学生には、めざしてきた仕事に就ける喜びとともに、指導に関わるいろいろな不安がある。実際に、教職相談室に来る学生に話を聞いてみると、授業、学級経営、生徒指導、保護者との関係など教師の仕事全般にわたって、不安をもっていることがわかる。初めて経験することに不安をもつのは当然のことであろう。それに加えて、マスコミ等を通して目にする学校や教師に関する情報は、不登校やいじめ、校内暴力、保護者対応の難しさ、教員の忙しさなど、課題となる負の部分に焦点を当てたものがほとんどである。そのことが、学生たちの不安を増幅している側面もある。さらに、道德の教科化、小学校における英語教育などの新たな動きについても、学校での勤務経験のない学生には、具体的な改善点や実施に伴う課題を理解するのが難しいであろう。こうしたことも、学生が抱く不安の背景にあると思われる。

一方で全国には、その学校の現状に合わせた指導を進め、大きな成果を上げている実践はたくさんある。岡山県下の学校においても、同様であり、その中核を担っている優れた教師もたくさんおられる。しかし、そうした取り組みが学生に情報として伝わる機会は、きわめて少ないのが現状である。意欲を持った学生は、ボランティア活動として積極的に教育現場や子どもを主体とした活動の場に出向き、よりよい教師になるための努力を重ねている。そこで直接子どもたちと接して、感じ取り学ぶことは貴重な経験である。ただ、そこで経験することは限定的であり、日々行われている教育を支えている理念や具体的な指導の方針をまとまった形で学ぶことはあまりない。

そこで、教育現場で優れた実践を進めている教師や教育委員会職員に講師を依頼し、学校や地域で行われている取り組みの概要やその基盤となっている教育の理念や指導の在り方を、学生に直接話していただく場として「教師力養成講座」を開催している。子どもや教師の具体的な取り組みについて直接聞くことで、学生は教師という仕事の魅力とやり甲斐を知るとともに、持っていた不安を和らげることができる。さらに、子どもが生き生きと学ぶ姿や教師が指導を通して成長していく姿を知ることによって、学生が自分の「育てたい子ども像」や「求める教師像」を描いていく助けにもなると考えている。

5.2. これまでの教師力養成講座

1) テーマの設定

テーマについては、次の二つの観点をもとに設定している。

A: 教師を目指す学生が不安に思っている教育課題とそれに対する学校現場での取り組み

B: 学生に学んでおいて欲しい教育の動き

教師力養成講座に参加した学生からは毎回アンケートを通して、講座に対する要望をきいている。「取り上げて欲しいテーマ」の記述には、多岐にわたるテーマが記述されている。

< 観点Aに関わるもの >

- ・学級経営・運営、子どもとの信頼関係づくり
- ・授業づくり、グループワーク、話術
- ・生徒指導、いじめ、不登校、問題行動
- ・教師同士の人間関係、教師間の連携
- ・地域や家庭との連携、保護者への対応
- ・教師が直面している課題、教師の資質

- ・学校間の連携の在り方
- ・部活動の指導
- ・特別支援教育の進め方
- ・校務分掌、教師の一日、学校における研修等

<観点Bに関わるもの>

- ・「生きる力」を育む指導
- ・インクルーシブ教育
- ・国際理解教育、外国語活動
- ・キャリア教育
- ・道徳教育、人権教育
- ・体験活動の充実
- ・グローバル化社会への対応 等

本年度のテーマについては、こうした学生の思いを反映させながら、これから求められる教師の力を描いて、講師の選定と併せて検討し設定した。

2) 講師の選定

講師については、指導や対応について優れた実践を進めておられる人材を、学校や教育委員会事務局で勤務する校長、教諭、指導主事等の中から選んで依頼している。このことは、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会の協力を得て進めている。本年度は、それに加えて本学教員推薦により、岡山県以外で勤務される先生にも講師を依頼し、小学校での協同学習の優れた実践を紹介していただいた。

3) 開催・運営

基本的な運営スケジュールは、前年度までのものを引き継いでいる。

<基本的な運営スケジュール>

| | |
|-------------------------|-----|
| (1)開会(挨拶・講師紹介) | 10分 |
| (2)大学教員によるテーマの意義についての講話 | 15分 |
| (3)講師による基調提案 | 40分 |
| (4)グループ討議・協同活動 | 20分 |
| (5)討議・活動内容の発表と共有 | 15分 |
| (6)講師によるまとめ・教職相談室によるまとめ | 25分 |
| (7)参加者各自のまとめ | 5分 |

○「大学教員による講話」は、学生がその意義を十分に理解している場合や(4)のまとめで補足できる場合には割愛している。本年度は、1～5回の講座のうち4回では設定しなかった。

○「基調提案」では、テーマについての基本的な考え方、学校での取り組みの概要、成果と課題などについての講話を行っている。本年度は、資料を基にした説明だけでなく、授業の様子のビデオ視聴や教育機器の操作なども組み込んでいただいた。授業中の子どもの雰囲気・反応や先生の指導の様子、指導の中で操作のポイントなどを学生に実感として伝えることができた。

○学生の「グループ活動」については、参加者アンケートの中に、「有意義な時間である」「もっと時間をとってほしい」などの意見が多く見られた。そこで、基調提案を聞いて学生同士が意見交換をしたり協力して活動したりする場をできるだけ充実させる方向で進めている。本年度は、基調提案をもとに、「意見交換・協議をする」「具体的な指導案や指導方法を検討する」などの形で30分ほどの時間を設定した。

○「討論の発表と共有」の時間では、班の数によって発表時間を制限することで、要領よく伝える発表を意識

できるようにしている。

○「講師によるまとめ」は、参加者の発表をもとに柔軟に設定している。本年度は、発表内容への評価、発表に対する補足、発表の中に含まれる質問への回答などが行われた。

4) 2014年度実施した「教師力養成講座」

本年度実施した講座の概要は、表5-1の通りである。本年度の講座のテーマについては、受講者のアンケートを参考にして「教師を目指す学生が不安に思っている教育課題とそれに対する学校現場での取り組み」として、特別支援教育(第1回)、生徒指導(第2回)、学校現場での教師の課題(第4回、第7回)、授業づくり(第6回)を設定した。また、「学生に学んでおいて欲しい教育の動き」として、キャリア教育(第2回)、情報教育(第5回)を設定した。

参考までに、これまでの本講座の実施記録も表5-2に示しておく。

表5-1 2014年度の「教師力養成講座」

| 実施日 | 回 | テーマ | 講師 |
|-------------|-----|----------------------------|------------------|
| 2014年 5月21日 | 第1回 | どの子ども参加でき、どの子どもわかる授業 | 赤磐市立小学校 校長 |
| 2014年 6月25日 | 第2回 | 小中高等学校におけるキャリア教育 | 岡山県立高等学校 校長 |
| 2014年 7月 9日 | 第3回 | 子どもの何を褒め、何を叱らなければならないのか | 岡山市立小学校 教諭 |
| 2014年 8月 6日 | 第4回 | 多くの教師は、教師になって揺らぐ | 大津市立小学校 教諭 |
| 2014年12月17日 | 第5回 | ICTを活用した授業づくり | 岡山市立小学校 校長 |
| 2015年 1月14日 | 第6回 | 「子どもたちにとって魅力的な授業」をどのように創るか | 岡山大学教育学部附属小学校 教諭 |
| 2015年 2月18日 | 第7回 | 今、学校現場で、教師に何が求められているのか | 岡山市立小学校 教諭 |

表5-2 昨年度までに実施した「教師力養成講座」

| 実施日 | 回 | テーマ | 講師 |
|-------------|-----|-------------------------|------------------|
| 2013年 5月22日 | 第1回 | 「体罰」を考える | 倉敷市教育委員会 |
| 2013年 6月26日 | 第2回 | 「いじめ・不登校」を考える 「原因や背景」 | 岡山市立中学校 教諭 |
| 2013年 7月10日 | 第3回 | 「いじめ・不登校」を考える 「対応と未然防止」 | 岡山市立中学校 教諭 |
| 2013年 8月 6日 | 第4回 | 「保護者のクレーム」を考える | 岡山市教育委員会 |
| 2013年12月 4日 | 第5回 | 「子どもにとって魅力のある学級」をどう創るか | 赤磐市立小学校指導 教諭 |
| 2013年12月11日 | 第6回 | 「子どもにとって魅力のある授業」をどう創るか | 岡山大学教育学部附属小学校 教諭 |
| 2014年 1月15日 | 第7回 | 教師力をつけよう | 岡山市教育委員会 |

| 実施日 | 回 | テーマ | 講師 |
|-------------|-----|-----------------|------------|
| 2012年 5月30日 | 第1回 | 子どもの特性を理解した生徒指導 | 岡山市立中学校 教頭 |
| 2012年 6月13日 | 第2回 | NIEの取り組み | 岡山市立小学校 教諭 |
| 2012年10月31日 | 第3回 | 外国語活動 | 岡山市立小学校 教諭 |
| 2012年11月28日 | 第4回 | 学級づくり | 岡山市立中学校 教諭 |
| 2013年 1月16日 | 第5回 | 学級びらき | 岡山市立小学校 校長 |

| 実施日 | 回 | テーマ | 講師 |
|-------------|-----|--------------|-------------|
| 2011年 5月18日 | 第1回 | 授業で学校を変える | 岡山市立中学校 校長 |
| 2011年 6月29日 | 第2回 | 伝統文化と武道 | 岡山市立中学校 教諭 |
| 2011年 7月13日 | 第3回 | キャリア教育 | 岡山県立高等学校 教諭 |
| 2011年10月 5日 | 第4回 | 国語教育における協同学習 | 岡山市立中学校 教諭 |
| 2011年11月 2日 | 第5回 | 保護者・地域との連携 | 岡山市立小学校 校長 |
| 2012年 1月18日 | 第6回 | 教師力をつけよう | 岡山市立中学校 校長 |

| 実施日 | 回 | テーマ | 講師 |
|-------------|-----|------------|----------------|
| 2010年 5月19日 | 第1回 | 学校における食育推進 | 岡山市立小学校 校長 |
| 2010年 6月16日 | 第2回 | 伝え合う力の育成 | 岡山市立小学校 校長 |
| 2010年 7月28日 | 第3回 | 情報教育 | 岡山市立中学校 校長 |
| 2010年10月27日 | 第4回 | 外国語教育 | 岡山市立中学校 教諭 |
| 2010年12月 1日 | 第5回 | 理数教育の充実 | 岡山市立小学校 校長 |
| 2011年 1月12日 | 第6回 | 生徒指導 | 教師教育開発センター 准教授 |

| 実施日 | 回 | テーマ | 講師 |
|-------------|-----|-------------------------|------------|
| 2009年 5月27日 | 第1回 | 子どもたちの生活とケータイの問題」 | 岡山市立中学校 校長 |
| 2009年 6月24日 | 第2回 | 発達障害など課題を抱えた子どもとどうかかわるか | 岡山市立小学校 校長 |
| 2009年 7月 8日 | 第3回 | 「いじめ・不登校の問題」をどう考えるか | 岡山市立中学校 校長 |
| 2009年10月14日 | 第4回 | 学校における「評価」について | 岡山市立中学校 校長 |
| 2009年11月25日 | 第5回 | 道徳教育について | 岡山市立小学校 校長 |
| 2010年 1月27日 | 第6回 | 学校力の向上について | 岡山市立中学校 校長 |

■ 学生の満足度

講座の開催にあたっては、次のようなアンケート調査を実施している。アンケートを、「学生の満足度を上げる」「学生の参加者を増やす」という点から考察し、その結果を運営の改善に生かしている。

アンケートは、5段階の評価を基本にしたものと自由記述によるものである。

<アンケート項目資料>

○受講者のこと 「性別」「学年」「所属学部・学科」「受験予定の学校種」

○今回の講座 ①基調提案(最初のお話)について、どのように感じましたか。

②グループでの話し合いは、活発に行われましたか。

③グループでの話し合い中、あなた自身の発表はどうでしたか。

④グループでの話し合いの時間の長さはどうでしたか。

⑤まとめ(最後のお話)について、どのように感じましたか。

⑥今回の講座で考えたことは、あなたが教師を目指す上で役立つと思いますか。

○本講座 ⑦次回の講座にも参加したいと思いませんか。

⑧今回の講座の感想や質問など、自由に書いてください。

⑨次回の講座で取り上げてほしいテーマを書いてください。

⑩この講座のことを、何で知りましたか。

⇒「掲示板」「教職相談室で」「センターHPで」「岡大教職ナビの情報で」「友人から」「その他」

本年度の開催にあたっては、学生の希望するテーマを生かすこと、参加者の意見交換のために時間を確保することなどに配慮した。

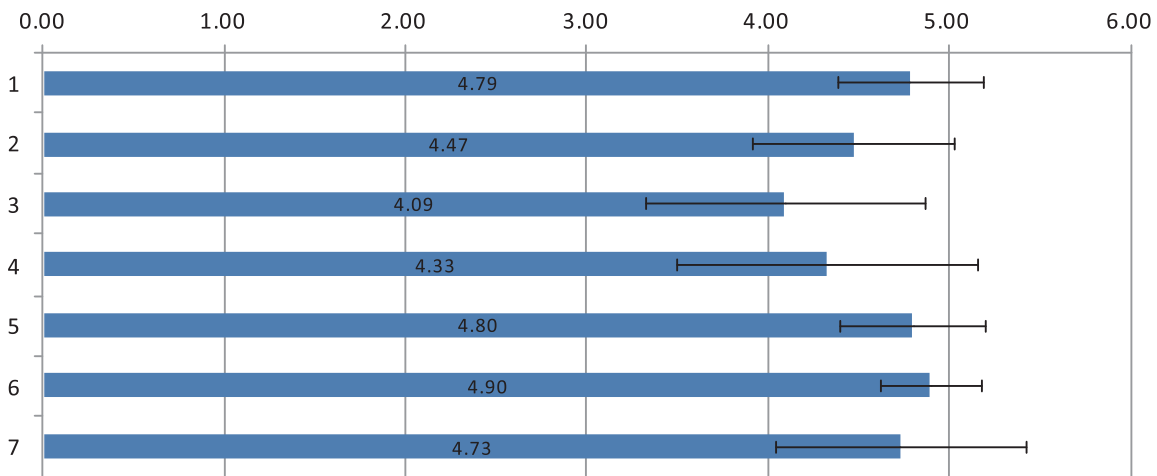
学生の講座に対する満足度は、表5-3の通りである。全体として、参加した学生の満足度は高いと言える。特に「基調提案」「まとめ」「教師を目指す上で役立つ」については、4.79～4.93と高い満足度が見られる。一方、受講者同士の意見交換への満足度は、「受講者自身の発言」4.09と「活発な話し合い」4.47とやや低くなっている。テーマに合わせてグループ協議の進め方をさらに工夫していきたい。

受講した学生の満足度が次回講座への参加意欲の高さに確実に繋がっていると考えられる。学生の教職に対する意欲を高めることは、本講座の出発点である。学生の思いを十分に捉え講座の運営に生かしていきたい。

表5-3 「教師力養成講座」参加者アンケートの結果

| | 2014年度 | | | | | | | | 2013 | 2012 | 2011 | 2010 | 2009 | |
|-------|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | 合計 | 合計 | 合計 | 合計 | 合計 | | |
| 開催回数 | | | | | | | | 7 | 7 | 5 | 6 | 6 | 6 | |
| 参加人数 | 36 | 20 | 92 | 34 | 32 | 47 | 38 | 299 | 392 | 118 | 179 | 282 | 274 | |
| ①基調提案 | 平均 | 4.86 | 4.89 | 4.93 | 4.88 | 4.47 | 4.80 | 4.69 | 4.79 | 4.89 | 4.77 | 4.95 | 4.85 | 4.86 |
| | SD | 0.36 | 0.32 | 0.26 | 0.42 | 0.57 | 0.40 | 0.47 | 0.40 | 0.37 | 0.54 | 0.21 | 0.42 | 0.41 |
| ②話し合い | 平均 | 4.51 | 4.47 | 4.53 | 4.63 | 4.34 | 4.31 | 4.50 | 4.47 | 4.47 | 4.25 | 4.40 | 4.47 | 4.46 |
| | SD | 0.56 | 0.51 | 0.50 | 0.49 | 0.55 | 0.70 | 0.56 | 0.55 | 0.64 | 0.39 | 0.65 | 0.67 | 0.57 |
| ③発言 | 平均 | 4.00 | 4.11 | 4.08 | 4.25 | 3.97 | 4.07 | 4.17 | 4.09 | 4.10 | 3.94 | 3.92 | 4.11 | 4.01 |
| | SD | 0.80 | 0.99 | 0.77 | 0.72 | 0.74 | 0.69 | 0.70 | 0.77 | 0.76 | 0.64 | 0.78 | 0.74 | 0.78 |
| ④長さ | 平均 | 4.57 | 4.05 | 4.46 | 4.44 | 3.97 | 4.69 | 4.11 | 4.33 | 4.34 | 4.25 | 4.07 | 4.30 | 4.16 |
| | SD | 0.81 | 0.78 | 0.86 | 0.88 | 0.93 | 0.70 | 0.85 | 0.83 | 0.93 | 1.11 | 1.10 | 0.88 | 0.88 |
| ⑤まとめ | 平均 | 4.88 | 4.79 | 4.98 | 4.90 | 4.52 | 4.76 | 4.78 | 4.80 | 4.89 | 4.92 | 4.91 | 4.89 | 4.80 |
| | SD | 0.33 | 0.42 | 0.15 | 0.40 | 0.57 | 0.48 | 0.48 | 0.41 | 0.36 | 0.08 | 0.35 | 0.35 | 0.51 |
| ⑥役立つ | 平均 | 4.94 | 4.95 | 4.99 | 4.94 | 4.72 | 4.89 | 4.86 | 4.90 | 4.96 | 4.92 | 4.97 | 4.93 | 4.95 |
| | SD | 0.24 | 0.23 | 0.11 | 0.25 | 0.46 | 0.32 | 0.35 | 0.28 | 0.21 | 0.08 | 0.17 | 0.25 | 0.21 |
| ⑦次回講座 | 平均 | 4.74 | 4.72 | 4.69 | 4.72 | 4.59 | 4.80 | 4.86 | 4.73 | 4.74 | 4.68 | 4.84 | 4.89 | 4.83 |
| | SD | 0.75 | 0.96 | 0.81 | 0.77 | 0.80 | 0.40 | 0.35 | 0.69 | 0.66 | 0.66 | 0.63 | 0.48 | 0.61 |

図5-1 2014年度の受講生満足度 平均値・標準偏差



■ 受講生の所属

岡山大学教師教育開発センターは、全学組織であり、「教師力養成講座」には、表5-4のように教育学部以外の課程認定学部の学生も参加している。教育学部以外の学生の参加者数は、表のとおりである。参加学生の数は、年により回により差が見られる。開催の日や時間など十分には対応できにくいこともあるが、広報などをさらに充実していきたい。

図5-2 受講者の内訳グラフ(2014年度)

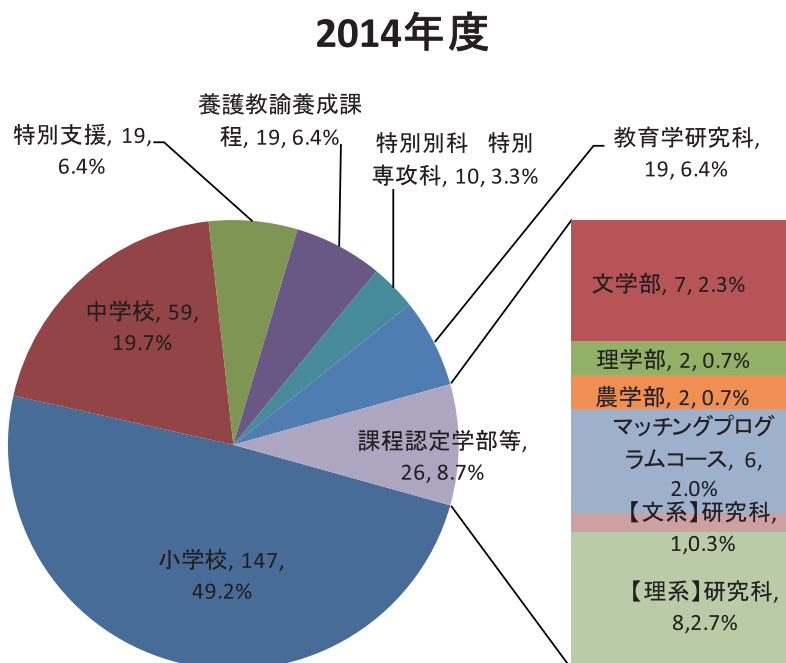


表5-4 年度別学生の所属一覧

2014年度

| | 教育学部 | | | | | | | |
|-----|------------|------|------|----|--------------|----------------------|-----|------|
| | 学校教育教員養成課程 | | | | 養護教諭 養成課程 | 養護別科・ 特別支援 専攻科 | 卒業生 | 合計 |
| | 小学校 | 中学校 | 特別支援 | 幼児 | | | | |
| (1) | 15 | 8 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 26 |
| (2) | 6 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 |
| (3) | 47 | 21 | 1 | 0 | 9 | 6 | 0 | 84 |
| (4) | 16 | 6 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 25 |
| (5) | 15 | 4 | 6 | 0 | 3 | 0 | 0 | 28 |
| (6) | 28 | 5 | 7 | 0 | 1 | 0 | 0 | 41 |
| (7) | 20 | 9 | 2 | 0 | 4 | 2 | 0 | 37 |
| 合計 | 147 | 59 | 19 | 0 | 19 | 10 | 0 | 254 |
| % | 49.2 | 19.7 | 6.4 | - | 6.4 | 3.3 | - | 84.9 |

| | 課程認定学部等 | | | | | | | | | 大学院 | | | | 全学 総計 |
|-----|---------|---|---|-----|---|---|-----|-----|-----|-----|-----------|-----------|-----|----------|
| | 文 | 法 | 経 | 理 | 工 | 環 | 農 | MP | 卒業生 | 教育学 | 文系 研究科 | 理系 研究科 | 修了生 | |
| (1) | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 6 | 0 | 1 | 0 | 36 |
| (2) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 4 | 0 | 1 | 0 | 20 |
| (3) | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1 | 2 | 0 | 92 |
| (4) | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 4 | 0 | 2 | 0 | 34 |
| (5) | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 32 |
| (6) | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 47 |
| (7) | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 38 |
| 合計 | 7 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 6 | 0 | 19 | 1 | 8 | 0 | 299 |
| % | 2.3 | - | - | 0.7 | - | - | 0.7 | 2.0 | - | 6.4 | 0.3 | 2.7 | - | 100.0 |

2013 年度

| | 教育学部 | | | | | | | |
|-----|------------|------|------|----|--------------|----------------------|-----|------|
| | 学校教育教員養成課程 | | | | 養護教諭 養成課程 | 養護別科・ 特別支援 専攻科 | 卒業生 | 合計 |
| | 小学校 | 中学校 | 特別支援 | 幼児 | | | | |
| (1) | 50 | 27 | 8 | 0 | 16 | 0 | 0 | 101 |
| (2) | 30 | 15 | 2 | 0 | 2 | 0 | 1 | 45 |
| (3) | 25 | 15 | 2 | 0 | 14 | 1 | 0 | 57 |
| (4) | 29 | 12 | 8 | 0 | 13 | 0 | 0 | 62 |
| (5) | 20 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 25 |
| (6) | 38 | 2 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 43 |
| (7) | 48 | 19 | 4 | 0 | 8 | 0 | 0 | 79 |
| 合計 | 240 | 88 | 27 | 0 | 55 | 1 | 1 | 412 |
| % | 50.2 | 18.4 | 5.6 | - | 11.5 | 0.2 | 0.2 | 86.2 |

| | 課程認定学部等 | | | | | | | | | 大学院 | | | | 全学 総計 |
|-----|---------|---|---|-----|-----|---|---|-----|-----|-----|-----------|-----------|-----|----------|
| | 文 | 法 | 経 | 理 | 工 | 環 | 農 | MP | 卒業生 | 教育学 | 文系 研究科 | 理系 研究科 | 修了生 | |
| (1) | 3 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 10 | 0 | 1 | 0 | 119 |
| (2) | 4 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 55 |
| (3) | 4 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 2 | 0 | 68 |
| (4) | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 4 | 0 | 3 | 0 | 72 |
| (5) | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 30 |
| (6) | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 48 |
| (7) | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 86 |
| 合計 | 17 | 0 | 0 | 8 | 3 | 0 | 2 | 1 | 0 | 26 | 0 | 12 | 0 | 478 |
| % | 3.6 | - | - | 1.7 | 0.4 | - | - | 0.2 | - | 5.4 | - | 2.5 | - | 100.0 |

2012 年度

| | 教育学部 | | | | | | | |
|-----|------------|------|------|----|--------------|----------------------|-----|------|
| | 学校教育教員養成課程 | | | | 養護教諭 養成課程 | 養護別科・ 特別支援 専攻科 | 卒業生 | 合計 |
| | 小学校 | 中学校 | 特別支援 | 幼児 | | | | |
| (1) | 4 | 4 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 11 |
| (2) | 19 | 4 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 26 |
| (3) | 17 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 20 |
| (4) | 5 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 13 |
| (5) | 12 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 15 |
| 合計 | 57 | 16 | 5 | 0 | 4 | 1 | 0 | 85 |
| % | 48.3 | 15.3 | 4.2 | - | 3.4 | 0.8 | - | 72.0 |

| | 課程認定学部等 | | | | | | | | | 大学院 | | | | 全学 総計 |
|-----|---------|---|---|-----|---|---|---|----|-----|-----|-----------|-----------|-----|----------|
| | 文 | 法 | 経 | 理 | 工 | 環 | 農 | MP | 卒業生 | 教育学 | 文系 研究科 | 理系 研究科 | 修了生 | |
| (1) | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 1 | 1 | 0 | 23 |
| (2) | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 33 |
| (3) | 3 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 26 |
| (4) | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 18 |
| (5) | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 18 |
| 合計 | 8 | 0 | 0 | 9 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 11 | 1 | 4 | 0 | 118 |
| % | 6.8 | - | - | 7.6 | - | - | - | - | - | 9.3 | 0.8 | 3.4 | - | 100.0 |

2011 年度

| | 教育学部 | | | | | | | |
|-----|------------|------|------|-----|--------------|----------------------|-----|------|
| | 学校教育教員養成課程 | | | | 養護教諭 養成課程 | 養護別科・ 特別支援 専攻科 | 卒業生 | 合計 |
| | 小学校 | 中学校 | 特別支援 | 幼児 | | | | |
| (1) | 18 | 5 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 26 |
| (2) | 8 | 6 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 19 |
| (3) | 12 | 10 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 29 |
| (4) | 16 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 |
| (5) | 7 | 1 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 14 |
| (6) | 12 | 4 | 3 | 0 | 2 | 0 | 0 | 21 |
| 合計 | 73 | 30 | 22 | 2 | 2 | 0 | 0 | 129 |
| % | 40.8 | 16.8 | 12.3 | 1.1 | 1.1 | - | - | 72.1 |

| | 課程認定学部等 | | | | | | | | | 大学院 | | | | 全学 総計 |
|-----|---------|---|---|------|---|---|-----|----|-----|-----|-----------|-----------|-----|----------|
| | 文 | 法 | 経 | 理 | 工 | 環 | 農 | MP | 卒業生 | 教育学 | 文系 研究科 | 理系 研究科 | 修了生 | |
| (1) | 1 | 0 | 0 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 42 |
| (2) | 0 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 29 |
| (3) | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 40 |
| (4) | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 25 |
| (5) | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 |
| (6) | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 25 |
| 合計 | 7 | 0 | 0 | 33 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 9 | 0 | 0 | 0 | 179 |
| % | 3.9 | - | - | 18.4 | - | - | 0.6 | - | - | 5.0 | - | - | - | 100.0 |

2010 年度

| | 教育学部 | | | | | | | |
|-----|------------|-----|------|----|--------------|----------------------|-----|------|
| | 学校教育教員養成課程 | | | | 養護教諭 養成課程 | 養護別科・ 特別支援 専攻科 | 卒業生 | 合計 |
| | 小学校 | 中学校 | 特別支援 | 幼児 | | | | |
| (1) | 44 | 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 55 |
| (2) | 51 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 54 |
| (3) | 25 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 27 |
| (4) | 19 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 19 |
| (5) | 17 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 |
| (6) | 42 | 11 | 3 | 0 | 16 | 0 | 0 | 72 |
| 合計 | 198 | 28 | 5 | 0 | 16 | 0 | 0 | 247 |
| % | 70.2 | 9.9 | 1.8 | - | 5.7 | - | - | 87.6 |

| | 課程認定学部等 | | | | | | | | | 大学院 | | | | 全学 総計 |
|-----|---------|---|---|-----|-----|-----|---|-----|-----|-----|-----------|-----------|-----|----------|
| | 文 | 法 | 経 | 理 | 工 | 環 | 農 | MP | 卒業生 | 教育学 | 文系 研究科 | 理系 研究科 | 修了生 | |
| (1) | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 60 |
| (2) | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 58 |
| (3) | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 35 |
| (4) | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 24 |
| (5) | 0 | 0 | 0 | 8 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 31 |
| (6) | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 74 |
| 合計 | 8 | 0 | 0 | 13 | 3 | 2 | 0 | 1 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 282 |
| % | 2.8 | - | - | 4.6 | 1.1 | 0.7 | - | 0.4 | - | 5.0 | - | - | - | 100.0 |

2009 年度

| | 教育学部 | | | | | | | |
|-----|------------|------|------|----|--------------|----------------------|-----|------|
| | 学校教育教員養成課程 | | | | 養護教諭 養成課程 | 養護別科・ 特別支援 専攻科 | 卒業生 | 合計 |
| | 小学校 | 中学校 | 特別支援 | 幼児 | | | | |
| (1) | 16 | 5 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 28 |
| (2) | 48 | 3 | 8 | 0 | 4 | 1 | 0 | 64 |
| (3) | 47 | 15 | 6 | 0 | 3 | 0 | 0 | 71 |
| (4) | 14 | 7 | 3 | 0 | 6 | 4 | 0 | 34 |
| (5) | 18 | 13 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 22 |
| (6) | 22 | 6 | 3 | 0 | 6 | 0 | 0 | 37 |
| 合計 | 155 | 49 | 28 | 0 | 19 | 5 | 0 | 256 |
| % | 56.6 | 17.9 | 10.2 | - | 6.9 | 1.8 | - | 93.4 |

| | 課程認定学部等 | | | | | | | | | 大学院 | | | | 全学 総計 |
|-----|---------|---|---|-----|---|---|-----|----|-----|-----|-----------|-----------|-----|----------|
| | 文 | 法 | 経 | 理 | 工 | 環 | 農 | MP | 卒業生 | 教育学 | 文系 研究科 | 理系 研究科 | 修了生 | |
| (1) | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 | 0 | 36 |
| (2) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 68 |
| (3) | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 76 |
| (4) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 34 |
| (5) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 23 |
| (6) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 37 |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 | 6 | 0 | 14 | 0 | 0 | 0 | 274 |
| % | - | - | - | 0.7 | - | - | 0.7 | - | - | 5.1 | - | - | - | 100.0 |

5.3. おわりに

1) 成果と課題

教育現場にはいろいろな課題がある。そして、その課題にしっかりと向き合い、確かに子どもを成長させている教師がおり、子どもが充実した生活を送っている学校が確かにある。そのことを知っていることは、これから教師を目指す学生にとって、自分が目指す子どもを育て、目指す教師になっていくために前進する大きな力となる。本講座に参加した学生の満足度は高く、複数回参加している学生が多い。その点から、学生のニーズにあった運営ができていると考えている。学生の声を大切にして、引き続き本講座の充実に取り組んでいきたい。

一方、次年度に向けての運営上の課題として依然として残ることもある。

○講座の開催時期と広報

今年度の講座は、5月～8月に4回、12月～2月に3回と、前半と後半に分けて計7回開催した。計画としては、7回の講座とも4年生の学生を受講対象の中心においていた。しかし、後半の講座への4年生の参加は決して多くなかった。教員採用試験を終えた4年生は、卒業研究への取り組みに重点を移していく。また、この講座の開催情報を入手するきっかけとして一番多いのが、「教職相談室での情報」であるが、後半には4年生が教職相談室を訪れる機会が減ってしまう。もちろん4年生の参加も大切にしていけるが、後半からは3年生にも積極的に声をかけたい。「12月から3年生を対象にして講座を始め、4年生の8月までの講座を一つのまとまりとして開催する」という計画も検討している。どんな計画を進めるにしても、鍵となるのは学生への広報である。確実に情報を伝えるためにも、さらなる工夫が必要である。

○教育学部以外の課程認定学部学生の参加の促進

8学部の学生に本講座の情報を確実に伝えるのは、それほど簡単ではない。現在行っているのは、「各学部掲示板」「教職相談室での直接の声かけ」「教師教育開発センターホームページ」「岡大教職ナビの情報」等である。この中で、一番有効なのは、「教職相談室での直接の声かけ」であるが、これには「相談室に来室する者」という前提がつく。もう一つ有効にはたらいっているのが「友人からの口コミ情報」である。さらなる一工夫が必要である。

○講座に参加できなかった学生への対応

教職を目指す学生には、教育実習を始め多くの履修科目がある。講座を設定した日に重なることもある。教員を目指す学生が一番多く所属している教育学部の時間割を確認した上で、期日の設定はしているが、それでも教育学部の授業と重なることがある。他学部ではなおのことであろう。これまでの講座の内容については、講師の先生のご厚意によりDVDとして学生に視聴できるようにしている。これをさらに活用したい。

2) 新たな視点から

岡山大学では、教育学部を含め8学部が教職課程認定を受けており、毎年400名を超える学生が教員免許を取得している。そうした学生に実践的指導力を確かに身につけさせるために、教育実習や体験的授業科目を工夫し取り組んでいる。岡山大学では、「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」をバランスよく身につけることが「教育実践力」として描いている。これらの力を育成するために教育現場で十分な体験を行うことは、時間的にも限界がある。「教師力養成講座」は、それを補足する一つの取り組みとなっていると考える。しかし、「教師力養成講座」には、まだまだ工夫の余地がある。

現在の運営は、教職相談室が中心になって単年度ごとに講座開催に向けてテーマ設定や講師選定を進め

ている。岡山大学から教師としての人生をスタートする学生により確かな実践的指導力を身につけさせるためには、長期的な視野も必要となる。教育委員会や学校とのより有効な連携の在り方、学内における授業化への移行の可能性などの視点ももちながら、本講座の在り方を探っていききたい。本年度は、文部科学省の調査研究事業を受け、類似した講座を開催している大学等への訪問調査、講座参加学生に対しての本講座の運営に関するアンケート調査等を進めている。また、試行的な試みとして、当センター理数系教員(CST)養成事業部門と共同企画という形で11月に特別講座も開催した。

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、岡山大学が実施した平成26年度「総合的な教師力向上のため調査研究事業」の成果をとりまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続が必要です。

【発行】

平成27年3月

【編集・発行】

岡山大学教育学部・教師教育開発センター
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中3-1-1
TEL:086-251-7728 FAX:086-251-7586
E-mail: cted@okayama-u.ac.jp

【印刷・製本】

昭和印刷株式会社

